

「青少年からのメッセージ」の募集結果について（報告）

1 事業の目的

毎年、異なるテーマを設けて、青少年（18歳以下）から作文及び漫画・イラスト形式のメッセージを募集し、入選作品等を掲載するメッセージ集を作成・配付することにより、自己表現や自己実現の機会を提供して青少年自身の人格形成に資するとともに、地域社会における青少年の健全育成に対する関心を高める。

2 事業の概要

- (1) テーマ 本年度は、現代社会において欠かすことのできない電子メディアの適正な利用について自ら考え実行する態度を身につけるとともに、社会を構成する一員としての自覚を持ち、自分の能力を精一杯発揮しながら、社会を生き抜く力を身につけてもらうため、「電子メディアと上手につきあうには」とした。
- (2) 規格 [作文部門] 小学生200字程度（5・6年生は300字可）、中高・一般は400字程度の文章とする。
 [漫画・イラスト部門] 1～4コマの漫画・イラスト
- (3) 応募資格 市内に在住又は通勤・通学する、小学生から概ね18歳までの者
- (4) 募集期間 平成29年6月1日（木）～平成28年7月7日（金）《必着》
- (5) 応募結果 作文部門13,401点、漫画・イラスト部門666点、合計14,067点の過去最高の応募があった。

参考：各年度のテーマ及び募集結果

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
テーマ	小「心からありがとうと思ったこと」 中高一般「みんなに守ってほしい社会的ルールやマナー」	いじめ	私にがんばる力をくれたことば	平和な未来のために、私にできること	未来の自分のために今がんばること	電子メディアと上手につきあうには	
作文	小	1,695	1,378	2,714	3,765	4,824	4,346
	中	3,798	3,574	6,594	7,650	8,480	8,691
	高・一般	167	293	425	111	134	364
	計	5,649	5,245	9,733	11,526	13,438	13,401
漫画	小	63	81	108	211	152	658
	中	9	37	26	56	9	2
	高・一般	23	0	4	2	9	6
	計	95	118	138	269	170	666
計	小	1,758	1,459	2,822	3,976	4,976	5,004
	中	3,807	3,611	6,620	7,706	8,489	8,693
	高・一般	190	293	429	113	143	370
	計	5,755	5,363	9,871	11,795	13,608	14,067

(6) 選考

- ・ 10月3日(火)に審査委員会〔学識経験者、関係団体等(作文部門、漫画・イラスト部門とも各10名:別添名簿のとおり)]を開催した。
- ・ 作文部門は、「小学生の部」、「中学生の部」、「高校生・一般の部」別に、漫画・イラスト部門は一括して、入選作品及びメッセージ集掲載作品を選考した。

○ 入選作品数:合計16作品

- ・ 作文部門:「小学生の部」、「中学生の部」、「高校生・一般の部」別に金賞1点、銀賞1点、銅賞2点の計12作品
- ・ 漫画・イラスト部門:金賞1点、銀賞1点、銅賞2点の計4作品

○ メッセージ集掲載作品数:合計68作品

- ・ 作文部門 小学生の部:25点(入選作品4点を含む)
中学生の部:23点(入選作品4点を含む)
高校生・一般の部:14点(入選作品4点を含む)
- ・ 漫画・イラスト部門:6点

※ 審査委員の方々から、「電子メディアとのつきあい方は、今の時代を生きる子ども達にとって、切り離すことのできない大きなテーマであるが、電子メディアに使われるのではなく、便利な道具として使う立場にならないといけないと考えているのが印象的であった。また、家族や友達とのコミュニケーションの大切さを書いてある作品もありよかった。」などの意見をいただいた。

(7) 表彰

入選者は、11月18日(土)に青少年センターで開催する「第31回広島市青少年健全育成市民大会」において、市長が表彰するとともに、金賞受賞者(4名)に作品を発表してもらい、審査委員長から、審査を振り返っての講評をいただく。

(8) 作品の活用

入選作品を含む優秀作品(68作品)を掲載したメッセージ集を作成し、広島市青少年健全育成市民大会で参加者全員に配付するとともに、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を始め、関係部署、青少年健全育成連絡協議会、公民館及び図書館等に配布する。また、メッセージ集掲載作品の本市ホームページへの掲載や、各学校へのデータ配信などにより、青少年健全育成のために広く活用する。

平成29年度「青少年からのメッセージ」審査委員会委員

区 分	委員名	所属・役職	審査部門	
			作文	漫画
学識経験者 及び 市民代表	石 井 健一郎	広島市青少年健全育成連絡協議会副会長	○	○
	鈴 木 由美子	広島大学大学院教育学研究科教授	○	○
	田 原 直 樹	中国新聞社論説委員室委員	○ (委員長)	○ (委員長)
	板 倉 妙 子	広島市地域活動連絡協議会会長	○	○
	和 田 勝 恵	日本児童文学者協会会員	○	
	大 下 恵 子	大州中学校長(平成29年度広島市中学校 教育研究会国語部会長)	○	
	和 田 麻里子	亀崎小学校長(平成29年度広島市小学校 教育研究会国語部会長)	○	
	大 井 健 地	広島市立大学名誉教授		○
	橋 本 忍	祇園東中学校長(平成29年度広島市中学 校教育研究会美術部会長)		○
	宮 本 眞弥子	亀山小学校長(平成29年度広島市小学校 教育研究会図工部会長)		○
行政関係者	広 田 稔 之	教育委員会青少年育成部育成課長	○	○
	岩 室 浩	教育委員会青少年育成部育成課 非行防止・自立支援担当課長	○	○
	松 尾 雄 三	教育委員会青少年育成部放課後対策課長	○	○
	13名		10名	10名

(敬称略)

テーマ／「電子メディアと上手につきあうには」

【作 文 部 門】

《小学生の部》

金賞 『まほうの道具』

川内小学校6年 永井 百笑

スマートフォンやケータイが普及している今、私達に求められるのは、メディアとの上手なつきあい方です。メディアと上手につきあうには、家族とのふれあいが大事だと私は思います。メディアとうまくつきあえていない人には、「スマートフォンやケータイにのめりこみ、家族との会話が少なくなっている」という大きな共通点があるのではないのでしょうか。私の兄もスマートフォンを持っていますが、部屋からおりてきた時にしか会話をしません。スマートフォンやケータイは遠くの人と会話ができるまほうのような道具です。そのまほうに夢中になるのではなく、もっと家族とふれ合い、会話をする事で、スマートフォンやケータイと上手につきあえるのです。

銀賞 『スマホの日曜日』

伴南小学校4年 森本 悠月

児童保育から帰りわたしはかぎられた時間だけお母さんのスマホでゲームをします。もっとしたいと思うときが多いです。たしかにスマホは楽しいけどずっとやっているとどうなるのだろうと考えるとこわいです。だからわたしは「スマホの日曜日」を作って、一日スマホを使わないのはどうだろうと思いました。その日はスマホがないと不便だけど、そのかわりにスマホの使い方やありがたさをじっくり考えることができると思います。

銅賞 『マナーを守り、電子メディアとつきあおう』

原南小学校6年 渡部 聖菜

わたしは、電子メディアと上手につきあうために三つのことを大切にしています。一つ目は適度な時間でケータイやインターネットとつきあうことです。夜おそくまでメールのやりとりをしたりすることで体調をくずしたりする場合があります。二つ目はインターネットでのルールやマナーを守ることです。インターネットでは相手の顔を見ることができないのでどんな人か分かりません。それに、知らず知らず相手を傷つけてしまうこともあります。メールでのやりとりは相手の気持ちを考えて行うことが大切です。三つ目は何か少しでも危ないことがあったらすぐ家族や先生に相談することです。一人でなやまないでみんなに相談することが大切です。

以上のことに気をつけて電子メディアと安全につきあっていきましょう。

銅賞 『みんなとの大切な時間』

伴南小学校4年 中西 彩衣

わたしの家にはゲームがありません。なぜなら、両親が、子どもたちにはゲームを買わないときめたからです。わたしは、家で、妹といっしょにレゴをしたり、絵を書いたり、トランプをしたりしています。よく公園に行くと、友だちとゲームをしている人がいます。わたしは、なぜ公園にまで来てゲームをするのかなー？と思いました。わたしが家で、テレビを見すぎているとお母さんにおこられます。あと公園で、ゲームをしている人は、なにも友だちと、話していません。友だちや、家族との時間を大切に、すごすためには、ゲームのしすぎはよくないなあと思います。

《中学生の部》

金賞 『あると便利なもの』

大塚中学校2年 前原 鈴音

みなさんはスマートフォンを「なくてはならないもの」だと思いますか。私は「なくてはならないもの」ではなく、「あると便利なもの」だと考えます。私の周りには、自分用の携帯電話を持っていて、1日に何時間もSNSでやりとりをして、「なくてはならないもの」になっている友達も多くいます。その友達は、大変だと言っていました。本当の目的以外の話にもなるし、夜遅くまでやり取りが続くそうです。私は携帯電話を持っていませんが、ほしいと思ったことは一度もありません。なぜなら、携帯電話がなくても、家の電話で連絡することができるからです。電話は、その家の人に迷惑がかかるので、長い間話したり、夜遅くにかけることも少ないと思います。携帯電話がなくても連絡できるので私はスマートフォンは「なくてはならないもの」ではなく、「あると便利なもの」だと考えます。みなさんも、スマートフォンを必要な時だけ使い、「なくてはならないもの」から「あると便利なもの」にしてみませんか。

銀賞 『適度な距離感を保つために』

白木中学校3年 福島 彩香

私は、去年の9月にスマートフォンを買ってもらいました。持つ前は、「スマホとかずっと見てたら目が痛くなるから」や「ラインとかめんどくさい」などと言っていました。しかし、いざ持ってみると目が痛くなることも忘れて何時間もスマホの画面を見つめ、いじってしまっていたのです。ラインも返信が早くこないかと思っていたし、返信が遅いと不安になってしまったりしていたのです。私はここで初めて、スマートフォンの影響力を知りました。

そこで私は、スマートフォンと適度な距離感を保つことが大切だと考えました。そのためには、使用する時間を制限することが必要だと思いました。具体的には、10オフ運動を行うことなどです。そうすることで、スマートフォンにとらわれた生活ではなく、自分で自分をコントロールする生活に戻れると思います。

このことを頑張り、スマートフォンと適度な距離感を保っていきたいです。

銅賞 『スマートフォンを便利に使うために』

大州中学校1年 兼本 悠里

スマートフォンやテレビゲームなどのネットは、世界とつながっていて簡単に世界で起きているさまざまなニュースを知る事が出来ますし、遠くにいる人とも簡単にメールや電話をする事が出来るとても便利なものです。

しかし、大まかに見たら簡単に使えて便利なものかもしれませんが、細かく見てみると危険なものになってしまうんじゃないかと思います。例えば、知らない人とネットでつながって事件になったりとか、とり返しつかない事になってしまう事もあります。

でも、上手に付き合えば便利なものとして使えるんじゃないかと思います。そのためには周りや親の手助けが大切だと思います。私のお母さんはけいたい屋さんだけど、子供にと言ってスマホを買いに来た人になぜスマホが必要なのかたずねるそうです。そして、持たせてあげたいという親には制限の仕方を教えるそうです。自分の子供が危険な目に合うのが嫌なら持たせなければいいと思います。

ネット事件を減らすには、子供の行動より親の子供への愛の方が大切だと私は思います。

銅賞 『達成感から得られるもの』

安佐南中学校1年 伊藤 洸佳

なぜ今は電子メディアにたよるのか、遊ぶのだろうか。私達の祖母、祖父が子どもの頃はスマホ、アイパッドはなかった。だが、分からないことは自分達で調べ、体を動かしてしっかりと遊ぶことができていた。昔と比べて今はどうだろうか。電子メディアにたよったり、遊んだりすることは悪いことではない。

だが、たよりすぎたり、遊びすぎたりしているのではないだろうか。昔は自分達で調べたり、自分達の体を動かしていた。つまり一つ一つに達成感が多かったのだと思う。今は電子メディアで多くのことを済ましている。

このままでは今も未来も「達成感」を得ることができないまま大人になっていくと思う。

そこで私が考えたのは自分自身が夢中になれることを見付けるということ。私自身が今夢中になっていることは絵をかくことである。私は一つの絵をかき終わると多くの達成感を得ることができる。みなさんも一つのことに夢中になる、一つのことを達成する「達成感」を得てみてはどうだろうか。

《高校生・一般の部》

金賞 『周りにある景色を見て』

広島皆実高等学校1年 丸岡 由芽

電子メディアの使い方はたくさんあります。本を読んだり、動画を見たり、ゲームをしたり。どれも場所を問わず短時間ですることができます。しかし、誰からも手が届きやすく容易に使うことのできる電子メディアばかりを見て、あなたの周りに本当にある大切なものを忘れていませんか。本にある独特な香りや、実際に見る風景、体を動かして友人達とレクリエーションをすることを忘れていませんか。電子メディアの世界は広く深いです。しかし、現実に見ている世界はネットなどの世界よりも圧倒的に広く深く、そして色とりどりなのです。肌で感じる温度、遠くからきこえる鳥の鳴き声。電子メディアのように電子的な信号で送られるものではなく目の前にあるものに、もっと目を向けてみませんか。今、自分の周りにあるスマートフォン、パソコンを少しでも止めて、周りの景色を見て下さい。現実と電子メディアを使い分けられますか。あなたの人生が有意義になるためには本来のものに目を向けることが大切なのです。

銀賞 『SNSの上手な使い方』

広島皆実高等学校3年 米田 百々

私はスマートフォンを使用するにあたって、特にSNSの使用についてはよく考えて使用する必要性があると感じました。

SNSは誰とでも簡単につながることができますが、それ故に直接会って会話をする必要性や機会がへり、自分を表現する技術が十分に身につかないまま大人になる危険性があります。看護の授業で私は、言語的コミュニケーションよりも非言語的コミュニケーションの方が圧倒的に感情を表現しやすいという事を学びました。しかしSNSでは非言語的コミュニケーションを伝える事は難しく、その中で誤解が生まれる場合だってあり得ます。SNSによって関係が気まづくなってしまい、その中からいじめ等にもつながる可能性もあります。SNSによってその様なことにならないため、私達はSNSは程々に、大切なことはSNSですませるのではなく、直接本人と会って話すことで、友達とより良い関係を築いていけるのではないかと思います。

銅賞 『距離を保って』

広島皆実高等学校3年 渡邊 華香

電子メディアと上手につきあうには適切な距離を保つことが大切だと考えます。

近年 SNS などでネット上で新たな出会いや人間関係を築くこともできます。しかし、顔の見えない関係を本当に仲間や友達、もしくは恋人だと心から思えるのでしょうか。実際に、ネットで出会えた友達のおかげで生きること誇りを持てた人もいます。その反対にネット上の出会いによって事件に巻き込まれた人もいます。事件を起こさないための予防として電子メディアから一方的な考えで遠ざけてしまえば、前者はどうなってしまうのでしょうか。メリットとデメリットが紙一重の電子メディアの世界では、距離というのがとても重要です。知りたいと思う気持ち、互いを思う関係、そして、危ないと思った時の勇気ある撤退をキーワードに自分と電子メディアとの適切な距離を保っていくことこそが上手につきあい方だと思います。電子メディアと上手につきあうことでよりよいネットワーク社会に生きる人が増えると良いです。

銅賞 『SNS の利用について』

広島皆実高等学校3年 西浦 梨菜

私は、電子メディアの中でも特にスマートフォンと上手く付き合っていくためには、SNS でのやり取りは連絡を取り合うことを中心に利用すべきだと考えます。

私は普段、学校で話しにくかったことを家に帰って SNS を使って友達に相談したり、逆に相談されたりすることがあります。確かに、SNS はいつでも簡単に連絡を取り合うことができ非常に便利です。しかし、SNS で相談をする上での欠点として、相手の表情や声が分からないという点があります。友達関係での悩みなどでは相手の感情が大切になってくると思います。人は言葉よりも表情や声のトーンといった非言語的コミュニケーションでほとんどの感情等を読み取るそうです。私も SNS 上での言葉だけよりも、直接話している時のほうが相手がそれだけ辛いのが伝わり、より気持ちに寄り添えると思います。

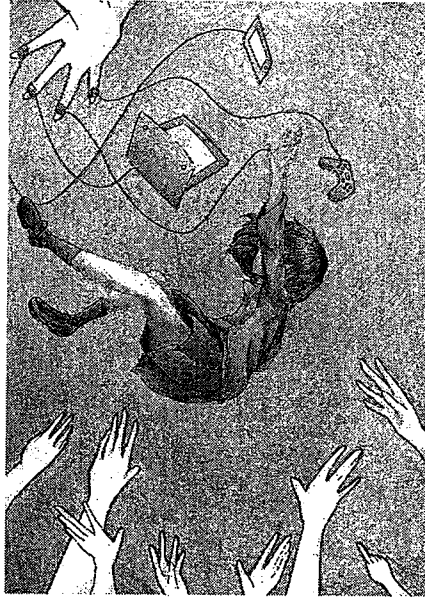
このことから、SNS で伝えていいことと面と向かって話した方がいいことを考えて利用していくべきだと考えます。

【漫画・イラスト部門】

金賞 『ネットのトラップ』

広島市立広島商業高等学校2年 西本 美穂

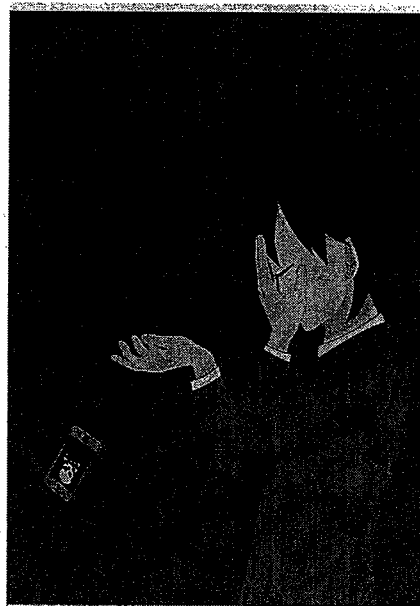
一度、電子メディアの罠にはまってしまうとなかなかぬけ出すことができないイメージで描きました。



銀賞 『もう一つの未来』

美鈴が丘高等学校2年 平本 涼介

自分は大丈夫という慢心が一つのミスを引き、そのミスが大きなミスへ変わることも可能性がゼロではないことを心に留めて正しく向き合うべきと思う。



銅賞 『それって本当にだいじょうぶ?』

安東小学校5年 青山 睦

みなさん、ゲームは好きですよ。ゲームには、ネットで遊ぶゲームもあります。でも、全部が楽しいゲームというわけではありません。ネットを使って、ゲームと見せかけて、個人じょうほうを書かせて、不ほうにあつかう人がいます。「そういう人がいるので気をつけて。」ということを表しました。



銅賞 『スマホのルール』

広島市立広島商業高等学校1年 永田 瑞季

スマホとうまくつきあうために、使うときのルールを決めている家も多いと思います。しかし、どうしても不便に感じてしまうことが多いです。親がルールを決めるのは、私たちを守るためだと思います。そのことに気付いてほしくて、これを描きました。

